

2023年度文学部プロジェクト研究 「自然災害下の社会における 表象と文化」講演会

[本プロジェクト研究の目的]

2023年2月のトルコ・シリア地震では甚大な被害がもたらされたが、2023年は関東大震災からも100年の節目の年にあたる。現在世界中で起きる地震や津波、豪雨といった自然災害の脅威はニュースやSNS等を通じ瞬時に状況が知られるようになったものの、現地の人々が災害にどう向き合い、以後どのような対策を講じるのかは社会的な背景によって大きく異なり十分に共有されていない。とりわけ災害が文化面に及ぼす影響や復興の様相はインフラや経済的な復興の陰に隠れがちであり、様々な地域・時代の災害の記録やその後の動きを比較検討し考察することは今後に向けて重要な示唆を与えるだろう。以上の背景及び問題意識から、本プロジェクトでは自然災害下の社会における文化面の諸相を多面的に考察することで、分野を横断した災害に関連する人文知を集積し、今後の有益な指針へとつなげることを目指す。

日時：2024年1月17日（水）
14:00-16:00

[プログラム]

14:00-15:00

基調講演：西村慎太郎（国文学研究資料館）

原発事故被災地における
歴史資料保全活動の成果と課題

15:00-15:10 休憩

15:10-16:00

コメント・質疑応答

大久保範子（美術史）

遊佐 徹（中国文学）

吉田 浩（ロシア史）



会場：文法経講義棟11番教室

対象：どなたでも、事前申込不要

問い合わせ：松岡弘之（日本近現代史）内線7406

hmatsuoka@okayama-u.ac.jp